HACHI

令和６年１月９日
八代市立第八中学校
学校だより第１８号
文責：校長

Harmony（調和）・Action（行動）・Challenge（挑戦）・Happiness（幸福）・Innovation（創造・革新）

令和6年（２０２４年）スタート　～今年もよろしくお願いします～

新しい年が始まりました。穏やかな天候の中に迎えたお正月でしたが、一日には北陸・新潟で大きな地震、二日には東京の羽田空港で飛行機事故、三日には北九州で大規模な火災と胸が痛むニュースが続きました。災害や事故はいつ・どこで起こるか分からない。日ごろからの危機回避や備えが大切であることを実感しました。お亡くなりになられた方々のご冥福、被害にあわれた地域の復興を心からお祈り申し上げます。

そのような中ではありますが、いよいよ学年の締めくくりである３学期がスタートしました。２学期の終業式に「省察」という話をしました。過去を振り返る「反省」、現在を見つめる「考察」、これらを踏まえて未来に向けてどのように行動していくかを考えていく「省察」。新しい年を迎え、八中生には自分自身を「省察」し、さらに大きく成長していって欲しいと願っています。八中職員も精一杯子供たちを支え、応援していきたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

宮地新制中学校設立当時の資料　～先人の熱い思いを受け継いでいきます～

右の写真は昭和２４年３月に宮地新制中学校の新校舎が完成した時の資料で、学校運営協議会会長で古麓にお住いの岡井様からいただいたものです。「待ちに待った我等の中學校舎」「村人の限りなき祝意を受けて」という文言から当時の宮地の方々の熱い思いが伝わってきます。冬休みに校長室にある学校沿革誌を見直してみると次のように記してありました。

「終戦後二ケ年にして、歴史的学制改革により、昭和二十二年四月より、新制中学校発足」
「中学校校舎としては旧國民学校校舎を使用、小学校と併設」
「昭和二十二年八月、校舎建築の議起り、小学校併設・増築は支障ある所以を説いて廻る」
「昭和二十二年十一月、分教場校舎落成」「村民の自覚奉仕努力によるもので、縣下第一番目の落成を見た中学校舎」「建築許可の問題で関係者の苦心あり」
「昭和二十三年七月十日、役場で校舎建築について第一回委員会」
「昭和二十三年八月十二日、起工式」「昭和二十三年九月十三日、全村總出で地ならし、瓦運搬、石拾い等に従事」
「昭和二十四年三月三日、桃の節句を期し、村を挙げての落成式が盛大に取行われる」
「昭和二十四年三月二十三日、第一回卒業式」

その後、昭和３３年の４月１日に八代市と合併し、校名が八代市立第八中学校になりました。

戦後間もない大変な時期にもかかわらず、地域の方々の熱意とご尽力によって今の八中の歴史がスタートしました。「支障ある所以を説いて廻る」「関係者の苦心あり」「全村總出で」という記述から、資料のタイトルにもある「仰げば尊し・村人の勞苦」の深い意味が窺えます。

宮地中学校から始まった八中も今年で７６年目になります。また、宮地小学校も創立１５０周年を迎えます。長い歴史の中でたくさんの児童生徒が育ち、各地・各分野で活躍されています。貴重な資料から、学校は子供たちや地域の未来を創造していく重要な役割があることを改めて感じさせていただきました。これからも宮地っ子の成長のために、宮地地域のために頑張っていきます。